

菅長官会見 改めぬ姿勢

「あなたに答える必要ない」「取材じゃない」

官房長官会見をめぐる主な文書や発言

東京新聞記者の質問に対して内閣記者会に ▶ **首相官邸**「事実誤認がある」として「問題意識の共有」を文書で申し入れ(2018年12月28日)

東京新聞記者の質問について ▶ **菅氏**「取材じゃないと思いますよ。決め打ちですよ」(2月12日、衆院予算委)

「特定記者の質問をせかすことは記者の質問権と国民の知る権利を侵害しかねない」とする質問主意書に ▶ **政府**「あくまで協力依頼で、指摘は当たらない」とする答弁書を閣議決定(2月15日)

東京新聞記者の「会見を一体何のための場だと思っているのか」の質問に ▶ **菅氏**「あなたに答える必要はありません」(2月26日、記者会見)



菅義偉官房長官

「簡潔に」催促も 報道室長

菅義偉官房長官が自身の記者会見をめぐる特定記者の取材を拒否する発言が続いている。「あなたに答える必要はない」「取材じゃない。決め打ち」といった発言だ。意に沿わない特定記者の質問を受け付けない言動は、政府にとって都合の悪い質問には答えないと運用につながりかねない。国会でも批判を浴びている。

官房長官は原則として平 者の質問に答えたりする政 日に2回、会見を開いてい 府のスポークスマンとして る。閣議決定した事柄や政 の重要な場だ。ところが昨 府の方針を説明したり、記 年末、官邸は記者会見での

東京新聞記者の質問 に関する文書

昨年12月28日、官邸報道室は首相官邸の記者クラブ「内閣記者会」に対し、官房長官の記者会見について文書で要請した。東京新聞記者の質問に「事実誤認がある」という内容で、「問題意識の共有をお願い申し上げます」とも、問題提起

東京新聞記者の質問に関する文書「**■**」を出した。

2月26日午後の記者会見では、この記者が「この会見を一体何のための場だと思っているのか」と質問した。これに対し、菅氏は「あなたに答える必要はありません」と述べた。

東京新聞の記者は同日午前の会見でも質問していた。菅氏は翌27日の会見で、同じ趣旨の質問が繰り返されたことを理由に挙げ、自身の発言の修正や撤回の考えはないことを明言した。菅氏にとって東京新聞記者の質問は「取材・報道目的ではない」と映っていると官邸幹部は明かす。

させていただく」と記していた。記者クラブ側は「記者の質問を制限することはできない」と報道室に伝えた。菅氏は2月12日の衆院予算委員会でも、東京新聞記者の質問は事実誤認が多いとして、「取材じゃないと思いますよ。決め打ちですよ」と発言した。

しかし、「あなた」と限定したうえで、答えを拒否するのは、記者を選別した対応だ。東京新聞記者の質問はネットで様々な議論を呼んでいるが、記者の選別は、政府にとって都合のいい質問だけに答えるという運用につながりかねない。

記者会見は、記者が政府に事実確認を求める場でもある。官房長官会見の問題を国会で取り上げた国民民主党の奥野総一郎氏は「事実と反する質問があった場合は、反論すればいい」と指摘した。

菅官房長官の会見の際、記者の質問中に上村秀紀・報道室長が「簡潔にお願い

します」とせかして質問を妨げるような行為も続いている。

会見は内閣記者会が主催し、質問の終了時には幹事社の記者が他に質問がないか各社に確認して終えるのが慣例だ。政府は「会見は内閣記者会主催で、政府として一方的に質問を制限で

きる立場になく、その意図もなく、あくまで協力依頼に過ぎない」との答弁書を閣議決定した。

官房長官の日程の都合で、会見時間が一定の制約を受ける場合があるが、今のところ「催促」によって記者が質問を取りやめた例はない。